

農業ロボ育め

「アグリテック」収穫・包装に

米で投資拡大



シリコンバレーの佐藤浩実
米国を中心に戸樹の収穫ロボットなど「アグリテック」と呼ばれる
分野の新興企業への投資が広がっている。2017年の関連スター・アップ企業の資金調達額は前年
の2倍近くに拡大。ベンチャーキャピタルに加え、農業に関わる大企業が資金の出し手として台頭して
きた。人工知能(AI)技術の普及に加え、慢性的な人手不足が農業の自動化を後押ししている。

シリコンバレーから車
で2時間ほど南にあるワ
トソンビル。イチゴやラ
ズベリーの畑が広がる農
業地区で、ベリー販売大
手の米ドリスコールが收
穫ロボや屋内栽培を研究
している。これまでも品

アグロボットが開発するイチゴの収穫ロボ

労働規制に備え自動化

種改良の研究はしていた
が「労働力、水不足、農
薬規制といったあらゆる
課題にぶつかり、15年ご
ろからスタートアップ企
業が持つ自動化技術に目
を向け始めた」と研究開
発部門長のノラン・ボー
ル氏はいう。

同社はイチゴの収穫ロ
ボを開発するアグロボッ
ト(カリフォルニア州)
という企業に出資。収穫
作業に携わる人を3~4
割減させないか検証して
いる。いまではドリスコ
ールの協業先はイチゴ関
連だけで6社、他の作物
を含めると20社近くまで
増えた。

米調査会社のCBイン
サイツによると、農場で
使う技術・サービスを扱
うスタートアップの企業
の資金調達額は17年に4
億3700万ドル(約49
0億円)。前年比で1・
9倍の急増だ。18年も農
業用ドローンや画像解析
を手掛ける企業などが資
金調達に成功し、上半期
(1~6月)まで1億

6700万ドルに達した。
アグロボットのジュニア・
プラボ最高経営責任者(CEO)
は「3年前までは誰も見向きもしな
かった。競合は8社以上
に増え、投資家の関心も
急速に高まっている」と
語る。

アグリテックは、計測
に使う3次元カメラの値
下りなどで開発が本格化
している。カリフォルニア州
はIT(情報技術)企業が集積するシリコン
バレーを抱え、AIなど
先端技術を取り込みやす
い立地にある。同じ農業
のオーストラリアや二
ユージーランドに比べ、
投資家の層も厚い。

さらに、果樹の一大生
産地であるカリフォルニア
では19~22年にかけて
は米農機大手のディアが
農業ロボ開発のブルーリ
バー・テクノロジーを買
収。デュポンは栽培状況
の管理ソフトを扱う企業
を買収した。

ヤマハ発動機が米国に置
く投資会社のジョージ・
ケラーマン最高執行責任
者(COO)は「農業は
成果が出るまで時間がかかるといわれてきたが、
(季節が正反対の)北半
球と南半球で検証するな
ど補うノウハウも確立でき
た」と話す。同社はリ

ンゴの収穫や包装など、
出資先の技術を米豪やニ
ュージーランドで試す。

農業の人手不足は日本に
とつても課題で、米国の
動向が注目されそうだ。

日本經濟新聞
夕刊
10月3日
(水曜日)

発行所 日本經濟新聞社
東京本社 (03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 (06)7639-7111
名古屋支社 (052)243-3311
西部支社 (092)473-3300
電子版アドレス
<https://www.nikkei.com/>
購読のお申し込み
0120-21-4946
<https://www.nikkei4946.com>

東京駅 日本橋二丁目
ビルと人のハーモニー
◎中央土地

動画で学ぶ
第一商品
GOLD

わかりやすく楽
動画